

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

授 業 科 目	単 位	備 考
<b>(イ) 専門科目</b>		
社会学特論Ⅰ-1	2	☆
社会学特論Ⅰ-2	2	☆
社会学特論Ⅱ-1	2	☆
社会学特論Ⅱ-2	2	☆
社会心理学特論Ⅰ-1	2	☆
社会心理学特論Ⅰ-2	2	☆
社会心理学特論Ⅱ-1	2	☆
社会心理学特論Ⅱ-2	2	☆
人格心理学特論Ⅰ-1	2	☆
人格心理学特論Ⅰ-2	2	☆
国際政治学特論Ⅰ-1	2	☆
国際政治学特論Ⅰ-2	2	☆
法学特論Ⅰ-1	2	☆
法学特論Ⅰ-2	2	☆
ドイツ文学特論Ⅰ-1	2	☆
ドイツ文学特論Ⅰ-2	2	☆
比較文化特論Ⅰ-1	2	☆
比較文化特論Ⅰ-2	2	☆
文化人類学特論Ⅰ-1	2	☆
文化人類学特論Ⅰ-2	2	☆
中国思想文化特論Ⅰ-1	2	☆
中国思想文化特論Ⅰ-2	2	☆
国際開発学特論Ⅰ-1	2	☆
国際開発学特論Ⅰ-2	2	☆
フランス文化特論Ⅰ-1	2	☆
フランス文化特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学特論1	2	☆
社会文化学特論2	2	☆
<b>(ロ) 共同演習</b>		
社会文化学共同演習	2	☆
<b>(ハ) 論文演習</b>		
●社会文化学論文演習Ⅰ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅱ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅲ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅳ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅴ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅵ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅶ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅷ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅸ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅹ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅠ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅡ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅢ	4	☆

備考：☆印は再履修することができる科目を示す  
本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、左記の本学大学院社会文化学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 専門科目から8単位以上修得する。
- (2) 社会文化学共同演習は、2年次に履修する。なお、1年次生および3年次生は、必須ではないが履修することが望ましい。
- (3) 社会文化学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- (7) 博士論文作成に向けて、学内発表会を行うとともに、専門学会出席を促し発表させる。
- (8) 社会文化学専攻のホームページにおいて、大学院学生の学会発表論文および投稿論文要旨などを掲載し、研究活動の活性化を促進する。

●在学延長の場合

在学延長を承認された者は、社会文化学論文演習のみ履修することができる。

授業科目一覧

- ：リサーチワーク科目
- 無印：コースワーク科目

授 業 科 目	単 位	備 考
<b>(イ) 専門科目</b>		
社会学特論Ⅰ-1	2	☆
社会学特論Ⅰ-2	2	☆
社会学特論Ⅱ-1	2	☆
社会学特論Ⅱ-2	2	☆
社会心理学特論Ⅰ-1	2	☆
社会心理学特論Ⅰ-2	2	☆
社会心理学特論Ⅱ-1	2	☆
社会心理学特論Ⅱ-2	2	☆
人格心理学特論Ⅰ-1	2	☆
人格心理学特論Ⅰ-2	2	☆
国際政治学特論Ⅰ-1	2	☆
国際政治学特論Ⅰ-2	2	☆
法学特論Ⅰ-1	2	☆
法学特論Ⅰ-2	2	☆
ドイツ文学特論Ⅰ-1	2	☆
ドイツ文学特論Ⅰ-2	2	☆
比較文化特論Ⅰ-1	2	☆
比較文化特論Ⅰ-2	2	☆
文化人類学特論Ⅰ-1	2	☆
文化人類学特論Ⅰ-2	2	☆
中国思想文化特論Ⅰ-1	2	☆
中国思想文化特論Ⅰ-2	2	☆
国際開発学特論Ⅰ-1	2	☆
国際開発学特論Ⅰ-2	2	☆
フランス文化特論Ⅰ-1	2	☆
フランス文化特論Ⅰ-2	2	☆
社会文化学特論1	2	☆
社会文化学特論2	2	☆
<b>(ロ) 共同演習</b>		
社会文化学共同演習	0	☆
<b>(ハ) 論文演習</b>		
●社会文化学論文演習Ⅰ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅱ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅲ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅳ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅴ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅵ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅶ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅷ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅸ	4	☆
●社会文化学論文演習Ⅹ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅠ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅡ	4	☆
●社会文化学論文演習ⅩⅢ	4	☆

備考：☆印は再履修することができる科目を示す  
本年度に開講する科目についてはシラバス等を参照すること

履修要項

●単位の修得方法

修了要件単位（10単位以上）すべてを、左記の本学大学院社会文化学専攻博士後期課程において修得する。履修にあたっては次の方法に従わなければならない。

- (1) 専門科目から8単位以上修得する。
- (2) 社会文化学共同演習は、2年次に履修する。なお、1年次生および3年次生は、必須ではないが履修することが望ましい。
- (3) 社会文化学論文演習は全年次において履修または再履修できるが、修了要件単位には数えない。

●研究指導体制

- (1) 入学後の早い時期に、大学院学生の希望および研究領域と本専攻の専任教員の専門領域を複合的に勘案し、指導教員を決定する。
- (2) 指導教員とともに副指導教員を決定し、複数指導体制とする。
- (3) 大学院学生は、研究全般に関して、適宜指導教員および副指導教員に相談することができる。
- (4) 毎年度、大学院学生は指導教員と相談の上、研究計画を立て、指導教員は「研究指導計画書」を作成して指導する。
- (5) 大学院学生は、指導教員が担当する「論文演習」を履修し定期的に論文執筆指導を受け、博士論文を作成する。
- (6) 「共同演習」において、年3回発表の機会を設けて、大学院学生はいずれか最低1回は発表する場が設けられている。「共同演習」には全教員が参加し、質疑応答を通じて指導する。
- (7) 博士論文作成に向けて、学内発表会を行うとともに、専門学会出席を促し発表させる。
- (8) 社会文化学専攻のホームページにおいて、大学院学生の学会発表論文および投稿論文要旨などを掲載し、研究活動の活性化を促進する。

●在学延長の場合

在学延長を承認された者は、社会文化学論文演習のみ履修することができる。